

学校関係評価委員会報告書

令和7年3月

専修学校 徳島県美容学校

I. 学校の現状

学校名
専修学校徳島県美容学校

所在地
徳島県徳島市佐古二番町3-5

沿革
昭和30年 9月 私立各種学校徳島高等美容学校として認可
昭和30年10月 厚生大臣指定徳島県美容師養成施設として夜間課程、通信課程を創立
昭和33年12月 校舎移転
昭和34年 3月 養成所廃止
徳島県美容業環境衛生同業組合立徳島高等美容学校設立
昭和52年 6月 校舎移転
昭和57年 4月 昼間課程設立、夜間課程廃止
昭和61年 1月 校舎改装
平成10年 新制度に変更
平成12年 4月 専修学校に変更
平成22年 4月 新校舎設立

学科の構成
衛生課程 美容科
衛生課程 美容ダブルライセンス科
衛生課程 別科 通信課程 美容科
衛生課程 別科 通信課程 美容ダブルライセンス科

学生数及び教員の数
衛生課程 学生総数56名
衛生課程 別科 学生総数70名

Ⅱ. 学校の理念

教育理念

「笑顔と感謝の心」本校では、この言葉を重んじ、高い知識と技術のみならず、心ある人材を育成し、社会に貢献することを使命と考え、その基本姿勢を学則に記している。

(学則)

第1条 本校は教育基本法及び学校教育法並びに私立学校法に従い、人格の完成と、平和的な国家及び社会の形成者として、勤労と責任を重んじ自主的精神に充ちたる心身共に健康なる生徒を育成することを旨とし、社会人としての教養と、近代的な感覚と、専門的な知識と技術を修得せしめ特に美容技術の研究研磨並びに衛生知識の向上をはかるを目的とする。

Ⅲ. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

教育目標

・美容の基本的知識及び技術はもちろんのこと、美容師として必要なエステ、ネイル、メイク、着付など幅広い技術を修学し、多様化するニーズに柔軟に対応できる技能を身につける。そして、いかなる時代であっても必要とされる「美容」という職業を通して、社会に貢献できる美容師を育成する。

・本校の教育理念に基づき、笑顔と感謝の心を忘れない、人として魅力ある人間性豊かな人材を育成する。

IV. 評価項目の達成及び取組状況

1. 教育理念・目標

評価項目	適切	やや適切	ほぼ適切	不適切
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	4	0	2	0
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者に周知されているか	1	1	3	1
・学校における職業教育の特色を定めているか	2	1	3	0
・各学科の教育目標・育成人材像は、業界のニーズに向けて方向づけられているか	2	2	2	0

2. 学校運営

評価項目	適切	やや適切	ほぼ適切	不適切
・運営方針に沿った事業計画、事業計画が策定されているか	1	1	4	0
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか	1	1	2	2
・人事、給与に関する規程等は整備されているか	0	2	2	2
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	2	1	3	0
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	1	0	5	0
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	1	2	3	0
学校関係者評価委員会ご意見 ・何をするのもまず予算組みをしてから考える。 ・規則・規定をしっかりと作成する。				

3. 教育活動

評価項目	適切	やや適切	ほぼ適切	不適切
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	1	0	5	0
・育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育到達目標や学習時間の確保は明確にされているか	1	2	3	0
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	2	1	3	0
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	1	2	3	0
・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	3	0	3	0
・授業評価の実施・評価体制はあるか	2	0	4	0
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	0	2	4	0
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	2	2	2	0
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3	0	3	0
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	0	2	4	0
・関連分野における業界等との連携に於いて優れた教員（本務・兼務を含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	0	2	4	0
・関連分野における先端的な知識・技能等を習得する為の研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか	0	3	3	0

学校関係者評価委員会ご意見

・インターンシップ先募集の際に、お店の特徴も書いてもらうといい。その特徴を踏まえ、例えばカラーが好きな学生ならカラーが得意な店舗へ行くなど、学生が楽しいと思える環境作りが大切だと思います。

・外部講師を入れる際は、財政をしっかりと把握して入れること。

・学生のうちに実践的なことを学んでおきたい。

・待遇・マナーは勉強しておくとし就職してからも役に立つ。

・教員の方も待遇・マナーを勉強するといと思います。学生が、やっぱり先生方の真似をするので。

・シャンプー（サイド・バック）を授業にもっと取り入れてほしい。基本がしっかりとできていたら、お店に入ってから役にも立つ。

・学生がもっと興味を持つような授業がいい。やっぱり、やらされていると感じるよりも、楽しいと感じて自分から学習しようと思える授業の方が、学生も成長すると思います。

・ロールプレイや、実際に親兄弟、友達など施術をする機会を設けるのもいいと思う。出来上がりをアンケートをとって順位をつけるのもやる気がでるのでは？

4. 学修成果

評価項目	適切	やや適切	ほぼ適切	不適切
・就職率の向上が図られているか	4	0	2	0
・資格取得率の向上が図られているか	1	0	5	0
・退学率の低減が図られているか	0	2	4	0
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	1	1	4	0
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	0	2	4	0

5. 学生支援

評価項目	適切	やや適切	ほぼ適切	不適切
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3	0	3	0
・学生相談に関する体制は整備されているか	1	1	4	0
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	2	1	3	0
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	0	2	4	0
・保護者と適切に連携しているか	0	2	4	0
・卒業生への支援体制はあるか	2	2	2	0
・卒業生への支援体制はあるか	2	2	2	0

6. 教育環境

評価項目	適切	やや適切	ほぼ適切	不適切
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	0	1	5	0
インターンシップ等について十分な教育体制を整備しているか	3	0	3	0
・防災に対する体制は整備されているか	1	1	4	0

7. 学生の受け入れ募集

評価項目	適切	やや適切	ほぼ適切	不適切
・ 学生募集活動は、適正に行われているか	3	1	2	0
・ 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3	0	3	0
・ 学納金は妥当なものとなっているか	1	0	5	0

8. 財務

評価項目	適切	やや適切	ほぼ適切	不適切
・ 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	0	1	3	1
・ 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	0	2	3	0

9. 法令等の遵守

評価項目	適切	やや適切	ほぼ適切	不適切
・ 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	1	0	5	0
・ 個人情報に関し、その保護の為の対策がとられているか	3	0	3	0
・ 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	1	1	4	0
・ 自己評価結果を公表しているか	2	0	4	0

10. 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切	やや適切	ほぼ適切	不適切
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	0	3	2	1
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	0	3	1	2
学校関係者評価委員会ご意見 ・地域の清掃などして、ボランティア活動をするのもいい。社会に貢献しているという意識をもたせることと、地域住民へのアピールも重要。				

次ページ（まとめ）

学校関係者評価委員会まとめ

学生の実践的なスキル向上と主体的な学びの促進、計画的な学校運営、そして地域社会との連携という観点から、当校の更なる発展のための重要なご意見をいただきました。

1. 教育内容の充実と実践的スキルの向上

実践的スキルの重視: 学生が就職後すぐに活かせる実践的な技術習得を重視すべきとの意見があった。特にシャンプー技術（サイド・バック）の授業をさらに充実させることで、基本技術の定着を図ることが提案された。

接遇・マナー教育の強化: 接遇・マナーは就職後も役立つ重要なスキルであり、学生だけでなく教員も習得すべきとの意見があった。教員が模範となることで学生の学びが促進される。

2. 学生の主体性と意欲を引き出す教育環境

興味を喚起する授業設計: 「やらされている」と感じるのではなく、学生が自ら学びたいと思える魅力的な授業の必要性が指摘された。

実践的な機会の創出: ロールプレイや実際の施術体験（家族や友人への施術）を取り入れることで、実践的なスキルを養うことが提案された。また、アンケートによる評価や順位付けを導入し、学生のモチベーション向上を図る案も出された。

3. インターンシップと就職支援の改善

マッチングの最適化: インターンシップ先募集の際には店舗の特徴を明確にし、学生の興味や得意分野（例：カラーリング）に合った配属を行うことで、充実した実習環境を提供することが重要視された。

4. 学校運営と財務管理

計画的な財務管理: 外部講師の招聘や新たな取り組みを行う際には、事前に予算組みをしっかりと行うことの重要性が強調された。

規則・規定の整備: 学校運営において明確な規則・規定の策定が必要であるとの意見があった。

5. 地域連携と社会貢献

ボランティア活動の推進: 地域清掃などのボランティア活動を通じて、学生の社会貢献意識を高めるとともに、地域住民への学校のアピールを行うことの有効性が提案された。
